



Arafudo Art Annual 2014!

アラフド アート アニュアル 2014

福島の小さな町から広がる芸術祭

会期：2014年9月5日(金)～10月13日(祝・月)

芸術祭概要

アラフド（新踏土）とは、新雪を踏み固め道筋をつくるという福島の方言。

39日間の開催期間に、国内外39人のアーティストや研究者などが参加を予定する、「アラフドアートアニュアル2014」は福島市とアラフドアートアニュアル2014実行委員会が共同で開催する芸術祭。

市民、伝統のこけし工人、現代美術のアーティスト、研究者などが、言語だけではなく対話を試みを芸術で表現します。 昨年の第一回目の芸術祭は、土湯温泉町の旅館が震災により3分の1も廃業に追い込まれたことがきっかけで開催されました。経済の立て直しはもとより、見えない風評という力が猛威を振るう現在という時代を、様々な視点で読み解くことが狙いです。

今年度は開催地域を土湯温泉町を超えて福島市西部地域へと広げ、自然を含めた文化資源を見直して行きます。私たちは未来へと何を残していけるのでしょうか。今ある事象にとらわれずに話しあうにはどうすればいいのか。文化や芸術を協働で作る、見る力を養うことで豊かな想像力を育みます。

アラフドアートアニュアル2014 開催概要

日時：平成26年9月5日（金）から10月13日（祝・月）9:00から17:00

料金：無料（休館日・開館時間・料金の有無が異なる会場があります）

企画：アラフドアートアニュアル2014実行委員会

主催：つちゆ芸術万華郷実行委員会 共催：福島市 協力：土湯温泉観光協会

助成：公益信託うつくしま基金、公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団

平成 26 年度実施計画の趣旨・目的

アラフドアートアニュアルは、平成 25 年度に初開催し、来場者 1.2 万人を超えた現代美術の芸術祭です。2 年目となる平成 26 年度は、福島市との共催により来場者を 2.5 倍の 3 万人を目標として、39 日間 39 人（予定）のアーティストや研究者によるアラフドアートアニュアル 2014 を企画しています。

- **開催地域の拡大**

今年度は土湯温泉町から福島市西部にまで開催地域を広げ、福島市の自然を含めた文化資源をアーティストと協働して構築し、震災前とは違う観光資源の整備を予定しています。

開催予定地域：土湯温泉町／高湯地区／土湯峠／民家園／四季の里、他

- **世界の現代美術の場で活躍しているアーティストの展覧会**

「Art & Breakfast」を世界各地（ストックホルム、東京、ベルリン、メルボルン、ウィーン、ベルファスト）で開催している三田村光土里、増山士郎（北アイルランド）、田幡浩一（ベルリン）など、海外を拠点とし世界各国の現代芸術の世界で活躍するアーティストに加え、ニューヨークの MoMa で個展を開催した小泉明朗、韓国やイギリス、台湾、ロシアなど世界中で展覧会を開催している阿部乳坊や北川貴好、清水玲、等々が福島に集います。

- **アーティストや研究者と直接的な交流**

総合研究大学院大学学融合推進センター助教の奥本素子を始めとした各分野の研究者や地域住民・アーティストや伝統工芸のこけし工人たちとの円卓会議を設けることで、鑑賞教育にとどまらず、芸術祭の意義の普及啓発を行います。詳しい日程はお問い合わせください。

- **伝統のこけしづくりを、工人の工房で体験**

こけし工人直接指導の下、2 日間かけて材料の切り出しからロクロ作業、彩色まで工人本来の工程での作業を体験。1 回につき 3 名限定で、こけし工人からの指導のもとに伝統こけし作りを学んで頂くコースです。こけし工人によって開催日程が異なりますのでお問い合わせください。

参加料金 1 万円（2 日間、材料費込み）

イベントカレンダー

その他にもイベントやワークショップ企画があります。詳細はお問い合わせください。

9月5日（金）@土湯温泉町

- ・ 「オープニングパーティー☆」

午後からはギャラリーツアー、夕刻からは参加アーティストたちとの交流会を開催いたします。

9月5日（金）から1週間程度 @民家園（予定）

- ・ 清水玲：「公開制作」

インスタレーション作品の公開制作。クロージング時には、観客参加型の解体ワークショップを開催。

9月5日（金）6日（土）7日（日）@源泉

- ・ 岸井大輔：「土湯温泉に芭蕉（バナナ）を移植する。」

東京に自生している芭蕉を、土湯温泉まで運び、植えます。芭蕉とは、古来日本に自生しているバナナのことです。寒さに強い東北にまで点在していますが、在来種にはみられない、あからさまな南国風な大ぶりで繊維質な葉と、巨大な花でもって、自然から浮いている奇怪なものの比喩に使われてきました。たとえば能では金春禅竹が芭蕉の精霊を主人公にし、そのナリに感動した松尾芭蕉は自らのペンネームにしようなど、世間を越える天才が自分の魂を仮託してきた植物であるといえるでしょう。土湯温泉は、新しいものを受け入れる伝統があるといえます。それは芭蕉をめぐるように、ということでしょう。水芭蕉の群生地として知られる土湯に、今自生していない花芭蕉を移植することを通して、日本世間と自由意思や表現の関係について考察するプロジェクトです。

9月7日（日）@土湯温泉町

- ・ 岸井大輔：ディスカッション「芭蕉を移植する／世間にとって反俗の美とは何か」

3日間の移植プロジェクトの振り返りと、上記コンセプトについてのディスカッションを「始末をかく」プロジェクトメンバー（遠藤麻衣、橋本匠、武久絵里）とともにを行います。

9月20日（土）21日（日）@土湯温泉町

- ・ 河野良治：「こども・ビジネスモデルキャンパス」

去年に引き続き、戦略的思考を視覚化した画期的なフレームワーク、ビジネスモデルキャンパスを元に、福島県の子どもの対象として、土湯を一つの企業と見立てた『こども・ビジネスモデルキャンパス』を2日間に渡り開催予定。普段は大人を対象にしている、長野大学の河野先生が土湯アラフドアートアニュアルでは子どもを対象として、ワークショップを行います。

9月27日（土）28日（日）@土湯峠源泉

- ・ 湯道：「湯会」

湯道は遊びであり、総合文化活動です。「武器を捨てよ、ともに風呂に入ろう」を合い言葉に「湯を通じた対話への道」として、温泉での湯会や湯道ツアーを中心に、ゆるりと活動中。

10月11日（土）12日（日）

- ・ 岸井大輔：試演「始末をかく2／福島に芭蕉（バナナ）を移植する」

芭蕉のプロジェクトを通して製作された演劇を、試演します。本作品は11月29日から12月1日に東京渋谷にあるアップリンクで上演されるバージョンの試演版です。

10月11日（土）12日（日）13（月）@民家園（予定）

- ・ 清水玲：「解体ワークショップ」

観客が参加できる作品の解体ワークショップを行います。

10月13（月）

- ・ 「クロージングパーティー☆」

青山悟 | Satoru Aoyama

1973年生まれ。ロンドンのゴールドスミスカレッジを卒業後、シカゴ美術館付属美術大学院にて修士課程を修了。大量生産の為の道具である工業用ミシンを用いて丹念に縫い上げられた刺繍作品を通して、現代人の営みと機械（テクノロジー）との関係性に言及し、またそれにより失われつつある人間の感受性や創造性についての問題を提起する。

主な展覧会に「Storyteller」（国際芸術センター青森、青森、2012）、「メグロアドレス」（目黒区美術館、東京、2012）、「六本木クロッシング2010：芸術は可能か？」（森美術館、東京、2010）など <http://www.satoruaoyama.com/>
<< 明暗により色の変化する糸と使った薔薇の刺繍を、配旅館に設営します >>

アサノコウタ | Cohta Asano

建築家。1983年福島県福島市生まれ。慶応大学SFC政策・メディア研究科修士課程卒業後、地元の福島市に戻り「建築以下のデザイン」をコンセプトに「BHIS」を設立。プロジェクトFUKUSHIMA!では、美術家中崎透と「福島大風呂敷」(2011)、「はたと想う。」(2012)のディレクションを担当し、2013年にはアートディレクターとして「納涼！盆踊り」の舞台となる「複数の櫓」のデザインを担当する。 <http://www.bhis.jp/>

<< 向瀧旅館の宿泊者向けの客室に設営します >>

阿部乳坊 | Nyubo Abe

1982年新潟生まれ。2000年から木を用いての彫刻作品を多数制作。茨城県取手市、アーティストランスペース「拝借景」に過去居候、初期から深い関係にある。台湾、韓国など国際展にも参加するほか、中期滞在制作や科学などの研究者との共同制作も行っている。主な展覧会に「拝借景／非の無い処に煙を立てる。」（拝借景、取手、2014年）、「2013国際木彫芸術交流展 “刻憶人生”」（三義木彫博物館、台湾、2013年）、「自刻像：変態動物」（トーキョーワンダーサイト本郷、東京、2011年）、「FLY FORMOSA」（台北国際藝術村／台新銀行、台湾、2009年）、「Dis-Communication」（Sungkuk Art Museum、Seoul、2007年）など <http://abe-niuu-bou.com/>

<< 人間と動物のキメラを模した木彫刻を、土湯温泉町、民家園など複数箇所に展示します >>

有賀慎吾 | Shingo Aruga

1983年長野県生まれ。黄色と黒のカラーコンビネーションを基調に、様々な表現メディアによる作品を展開している。代替可能な人工臓器と海棲哺乳類のような人工皮膚をまとい、分裂していると同時に集合しているような複合的個人として生きることが将来的目標。主な展覧会に、「Trans Arts Tokyo 2013」（東京、2013年）、「Orgasmic Reproduction -ざんねんな出産しあわせな臨終-」（シャトー 2F、東京、2014年）、「SSS - Space Spiral Spirit」（Art Center Ongoing、東京、2014年）など。

<https://twitter.com/halgarga> <http://www.aruga-shingo.com/>

飯山由貴 | Yuki Iiyama

1988年神奈川生まれ。ネットオークションなどで購入した私的な記録から、ある社会下での文化や制度が個人、集団に及ぼした影響を辿り、混在したメディアで提示する作品を中心に制作。主な展覧会に個展「湯気 けむり 恩賜」（実家 JIKKA、東京、2013年）など。 <http://yukiiiyama.flavors.me/>

<< 医療記録や、アーティストの家族が持つ幻聴や幻覚を、家族で再現する試みの記録映像作品 >>

遠藤麻衣 | Mai Endo

1984年兵庫県生まれ、東京在住。演技を、他者の意識への接触を試みる行為であると捉え活動を展開している。主な作品として、俳優の演技を映した約16分の映像作品「彼女のことはなしている、彼女のことばで」（2013）、他者の不透明な部分を不透明なものとして共有するワークショップ「秘密は人にはなさない」（2013）など。

また、2013年に演出家の渡辺美帆子と演劇団体「二十二会」を結成。 <http://www.maiendo.net/>

河口遥 | Kawaguchi Haruka

1985年千葉県生まれ。パフォーマンスを抽象ではなく具象として受けとるための準備として、自身や、観客の身体を媒体とした作品を発表している。主な展覧会に「そんなにロマンチックな目つきをするな。」（22:00画廊、東京、2012年）、「あなた」（blanClass、神奈川、2013年）、「一人の男に三人の妻」（blanClass、神奈川、2014年）、「どうして俺のことをもう愛していないの？」（ドイツ料理屋Baden Baden、東京、2014年）、「無関心な女」（HIGURE 17-15cas、東京、2014年）。他の活動に、22:00画廊を主宰。<http://2200gallery.com> <http://2200gallery.com/20120609kawaguchiharuka.html>

<< 土湯温泉町のあちこちに、落書きのようなささやかなドローイングを点在させ、ひさごカフェで展示をします >>

川田淳 | Jun Kawada

1983年埼玉生まれ。身体と想像力を武器に、近年は映像作品を中心に制作。主な個展に「ケンナイ」（広島芸術センター、広島、2013年）、「まなざしの忘却」（22:00画廊、東京、2012年）。グループ展に「Screen」（HIGURE、東京、2014年）、「書を捨てよ、町へ出よう」（黄金町芸術センター高架下スタジオA、神奈川、2013年）、「ヒロシマ・オー ヒロシマフクシマ」（旧日本銀行広島支店、広島、2012年）、「中之条ビエンナーレ2011」（旧五反田学校、群馬、2011年）など。

<< アーティスト本人にとって身近な町（渋谷、新宿、銀座）で撮影した福島についての映像を投影します。 >>

北川貴好 | Takayoshi Kitagawa

1999年武蔵野美術大学建築学科卒業。美術作家。

環境や建物自体に手を加え空間そのものを新しい風景へと変換させていく作品を制作している。また、近年デジタルカメラを使った場所のリサーチの手法からワークショップやイベントや展示に展開した「30秒に一回みつける写真道場!!」を開催している。主な作品に、『ウチを開く』（取手市再開発仮設住宅跡地、2000年）、『眠りにつく前の残像』（黄金町特殊飲食店跡地、2008年）、『水／物質／自然が再生し、繋がっていく土地』（新潟市赤塚砂丘、2009年）、『amplitude 鳩の街／光』（東京都墨田区鳩の街商店街、2009年）、『ダブルスキンランドスケープ』（仙台メディアテーク、2010年）、『フロアランドスケープ』（アサヒアートスクエア、2012年）、『栞壁』（箱根彫刻の森美術館、2014年）<http://www.takayoshikitagawa.com/>

<< 廃旅館の旧岩城屋にて、ブルーシートを使った大掛かりなインスタレーションを設営します >>

岸井大輔 | Daisuke Kishii

劇作家 1970年生。早稲田大学大一文学部卒。

1995年に演劇以外のジャンルで行われた創作方法による形式化が、演劇でも可能かを問う作品群を発表している。あるいは芸術におけるモダニズムの完遂が、われわれの世代の演劇人の歴史的役割はこの問題と向き合うことだろうと考え、創作の指針とする。

記憶の再生が演技を生み出す事そのものを演劇と見なすプロジェクト『記憶の再生』、判断を全てサイコロに委ねる演劇

『P』、まちが表現する状況を設定する作品群『POTALIVE』、人間集団へ出入りする場を演劇として提示するシリーズ『LOBBY』、集団が良い劇を創作する方法の一つを形式化したワークショップのシリーズ『作品を創る/演劇を創る』、日本集団を日本語を通して捉えるプロジェクト『文（かきことば）』などがある。

2009年から2012年には、東京における公共を考えるために、ハンナアーレントの『人間の条件』を戯曲と見なし都内で上演するプロジェクト『東京の条件』実施。会議体／準備室などの諸プロジェクトを通し、人間集団を創る作品を手掛ける。

<http://kishiidaisuke.com>

<< 「芭蕉を移植する」プロジェクトを源泉やディスカッションで表現します >>

葛谷允宏 | Nobuhiro Kuzuya

1981年 愛知県一宮市生まれ, 2006年 金沢美術工芸大学 油画専攻 卒業, 2008年 東京芸術大学大学院 壁画専攻 修了 場所や状況に手を加える事によって、それに付随する社会のシステムや価値観に対し、よりポジティブな新しい価値を生み出す事、もしくは問い掛ける事を目的としている。そのため、アウトプットの形は物を作る事に限定されず、場や仕組みなど、形に現れない事にも及ぶ。普段は世界中から若いアーティストが集まる借家「拝借景」の借主であり、展示やLIVE、各種イベントが定期的に行われるアートスペース「コンフリ」の主催者兼料理人でもある。

佐々瞬 | Shun Sasa

1986年宮城県生まれ、東京都在住。音、構造物、テキスト、映像などがあわさる多層的な表現により、フィクションと現実、異なる時空を交差させ、「現在」を複数の豊かな可能性の中に開く。近年は、展示とパフォーマンスを組み合わせた活動も行う。主な参加展覧会に、「No Man's Land」（在日フランス大使館、東京、2009年）、「大邱フォトビエンナーレ 2012 Dance on a Thin Line」（大邱芸術発展所、韓国、2012年）、「MOT アニュアル 2012」（東京都現代美術館、2012年）、「Omnilogue: Your Voice is Mine」シンガポール国立大学美術館など。 <http://www.sasashun.com/>

<< 山本高之とコラボレーションし、ジオラマと映像作品を設営します >>

佐藤一弘 | Kazuhiro Satoh

1963年福島市生まれ／土湯温泉町在住
土湯温泉で80余年続く写真館の三代目。

「お客様の最も大切なひと時を正確に、確実に撮影し記録する」という仕事を祖父の代から三代にわたり続けている。ライフワークとしてビンテージこけしのポートレート写真撮影や郷土史を調べたりする事を好み、プロカメラマンとして消防活動を撮影する傍ら地元消防団活動などでも活躍し地域に必要な人間になろうとしている。

<< こけし見聞録館の2階部分に、ビンテージこけしのポートレート写真を展示します >>

清水 玲 | Ryo Shimizu

1977年香川県生まれ。2010年、第2回モスクワ国際ビエンナーレ for Young Art 出展、2011年1月、十和田市現代美術館および中心商店街各所にてアノニマスカワード企画展 街なか美術館 「トワダビト:清水玲」出展等【受賞等】トーキョーワンダーウォール 2010 平面部門入選／SICF11 スパイラル奨励賞／第13回 文化庁メディア芸術祭 アート部門 静止画 審査委員会推薦作品 等 <http://ryoshimizu.jp>

<< 民家園にて、公開制作のインスタレーション制作と、公開ワークショップで撤収をします >>

SUIKO

広島を拠点としながらも世界各国を巡るグラフィティ・アーティスト。

2005年に水戸芸術館で開催された国内初の大規模なグラフィティの企画展「X-COLOR」に参加後、活動規模を拡大、アメリカ、ドイツ、ブラジル、イスラエル、トルコ、中国、香港、韓国など様々な国から招待を受ける。

近年では壁を媒体とした表現にとどまらず、Walt Disney社、コカ・コーラ社、アディダス社、ECKO unltd.社などへもアートワークやデザインを提供するなど様々な方向に表現領域を広げ続ける傍ら、グラフィティショップ兼アートスタジオ「dimlight」の代表として地元のストリートシーンの活性化に心血を注ぐ。 <http://www.suiko1.com/>

<< 廃旅館の旧岩城屋旅館の外壁に10メートルを超える巨大な壁画を描きます >>

小泉明郎 | Meiro Koizumi

1976年生まれ。群馬県出身、横浜市在住。国際基督教大学卒業後、ロンドンのチェルシー・カレッジにて映像を学ぶ。2001年にベックス・フューチャー学生部門大賞受賞。2003年に茨城県アークス・スタジオに半年間滞在。2005年よりオランダ・アムステルダムライクスアカデミーにて二年間制作活動を行う。またその間、文化庁新進芸術家海外留学制度より助成を受ける。主な個展に「Defect in Vision」アネット・ゲリンク・ギャラリー、アムステルダム（2012年）、「Stories of a Beautiful Country」Centro de Arte Caja de Burgos (CAB), ブルゴス、スペイン（2012年）、「MAM Project 009：小泉明郎」森美術館、東京（2009年）など。主なグループ展に「インビジブル・メモリーズ展」原美術館（2011年）、「リバープール・ビエンナーレ2010」（2010年）、「メディア・シティ・ソウル2010」（2010年）、「第一回愛知トリエンナーレ」（2010年）、ニューヨーク近代美術館にて個展（2013年）。 <http://www.meirokoizumi.com/>

<< 森美術館で発表した映像作品を流します >>

小林耕平 | Kouhei Kobayashi

1974年生まれ

2010 小林耕平 & core of bells 「運送としょうゆとかぐや姫と先生とライオン」山本現代、東京

2011 PLATFORM 2011、練馬区美術館、東京／名前の落とししかた、松本市美術館市民ギャラリー、長野

2012 Double Vision:Contemporary Art from Japan、モスクワ市近代美術館／14の夕べ/14 EVENINGS、東京国立近代美術館／「あなたの口は掃除機であり、ノズルを手で持つことで並べ替え、電源に接続し、吸い込むことで語る。」山本現代、東京

2013 小林耕平×多田由美子 「ことばとかわすことでつくること」SARP、仙台／愛知トリエンナーレ関連企画「ユーモアと飛躍—そこにふれる—」岡崎市美術博物館、愛知

2014 Color Walls、TIME & STILE MIDTOWN、東京／第一部 1974年に生まれて、群馬県立近代美術館、群馬（グループ展）／パラプンセスト 重ね書きされた記憶／記憶の重ね書き／vol.4 小林耕平、gallery α M、東京（個展）

<< 相模屋旅館にて撮影したダンス映像作品を、相模屋旅館のフロントにて流します >>

小西智恵+菅谷奈緒+A.Y.K.K.project | Chie Konishi+Nao Sugaya+A.Y.K.K.project

2014年結成。身の回りのありふれた事象について、権力という観点からリサーチし悪意に基づいた嫌がらせとして展示/イベント/ドキュメントなどの形式にて提示する。共生のためのささやかな実践。最近の活動に「号外/ビラ配り/パフォーマンス」(新宿)など。 <http://sugayanao.wordpress.com/about/> <https://wandarrando.wordpress.com/>

<http://naosugaya.com/>

<< 福島市の心霊スポットを巡り撮影した、「見えないものが見える現象」の写真や映像作品を流します >>

バーバラ・ダーリン | BARBARA DARLInG

1981年新潟県生まれ。個人の物事に対する解釈と理解と認識の差異と、一般化に生じるパワーバランスを、社会を劇場と捉え

て、インスタレーション、パフォーマンス、映像制作、展示会の企画等を行い寓話化することで、歴史認識について考える。主な展覧会に、「The shiny future exhibition 2013 The HUMANISATION」（東京都美術館 東京都 2013 年）「ヨコハマトリエンナーレ 2011 特別連携プログラム【BankART Life 3】 新・港村（しんみなとむら）ー 小さな未来都市」（新港ピア 神奈川県 2011 年）など <http://barbaradarling.com>

<< 町の人たちの行動を呼び起こすプロジェクトを企画 >>

藤井光 | Hikaru Fujii

1976 年東京生まれ。パリ第 8 大学美学・芸術第三博士課程 DEA 卒。今日の日本の複雑な社会政治問題を反省的なアプローチによって表現する。その多くは固定カメラで撮影される静的な映像で、映画と現代美術の区分を 無効にするその活動は国内外の美術館・映画館で発表されている。 <http://hikarufujii.com/>

山本高之 | Takayuki Yamamoto

1974 年愛知県生まれ。愛知教育大学大学院修了、チェルシー・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザイン MA 修了。子供が交わす会話や彼らの遊びに潜む創造的な感性を通じて、人間を育む社会の制度や慣習などの特殊性をシニカルに描き出すプロジェクトで知られる。主な参加展覧会に、「シャージャ・インターナショナル・ビエンナーレ」(アラブ首長国連邦)、「笑い展 現代アートに見る『おかしめ』の事情」(森美術館, 東京)、「あいちトリエンナーレ 2010」(愛知)など。

<http://takayukiyamamoto.com/>

<< 佐々瞬とコラボレーションし、ジオラマと映像作品を設営します >>

増本泰斗 | Yasuto Masumoto

1981 年広島県生まれ。2007 年～2008 年ポルトガル・リスボン在住。現在は、京都に住んでいる。Grêmio Recreativo Escola de Política と The Academy of Alter-globalization を主宰。また、美術批評家の杉田敦との共同企画 Picnic を行なっている。最近の主な活動は、予言と矛盾のアクロバット、ドローイング、本の制作、非常勤講師、ARTISTS' GUILD。

<http://www.yasutomasumoto.com/>

<< アーティスト自身が拠点とする京都で、福島について遠くから考え行動するプロジェクト >>

増山士郎 | Shiro Masuyama

1971 年東京生まれ、川崎出身。ペルファスト(北アイルランド)を拠点に活動。

明治大学理工学部建築学科大学院修了。建築を学んだバックグラウンドを活かして、ニューヨークの ISCP(International Studio & Curatorial Program)、ベルリンの キュンストラーハウス・ベタニエン、ダブリンのアイルランド近代美術館、韓国国立現代美術館の主催するナショナル・アート・スタジオ・ゴヤン等、世界各地のアーティスト・イン・レジデンスに滞在しながら、それぞれの地域に根ざした社会と関わる プロジェクトを実施している。 <http://shiromasuyama.net/site/News.html>

<< ネパールに赴き、アルパカの毛を刈り、その毛糸で作ったマフラーをアルパカの首に巻くプロジェクト映像 >>

眞島竜男 | Tashuo Majima

現代美術作家

1970 年 東京都生まれ。1993 年 ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジ美術科卒業。武蔵野美術大学油絵学科非常勤講師。東京と大分にて制作、活動中。

徹底したリサーチに基づく独特のユーモアを交えた作風を特徴に、写真、映像、パフォーマンスなど多様なメディアを用いた

作品を発表。近年の主な展覧会に 2012 年「無題（栄光の彼方に）」（TARO NASU）、「But Fresh」（トーキョーワンダーサイト）、2010 年「北京日記」（TARO NASU）など。 http://www.taronasugallery.com/art/tatsuo_majima/work.html

三田村光土里 | Midori Mitamura

1964 年、愛知県生まれ。「人が足を踏み入れられるドラマ」をテーマに写真や映像、様々な素材を用いた空間作品を国内外の美術展で発表。近年はアートプロジェクト「Art & Breakfast」を世界各地で開催（ストックホルム、東京、ベルリン、メルボルン、ウィーン、ベルファスト）。主な個展に「夜明けまえ」（Gallery Terra Tokyo、2013 年）、「グリーン・オン・ザ・マウンテン」（uqbar、ベルリン、2012 年）、「I'm standing beside the water」（バンビナートギャラリー、東京、2011 年）、三田村光土里@ヨコハマ（創造空間 9001、横浜、2008 年）、「グリーン・オン・ザ・マウンテン」（ウィーン分離派館・ゼセッション、2006 年）。主なグループ展に、「そらいろユートピア」（十和田市現代美術館、2014 年）「虹の彼方」（府中市美術館、2012 年）、「クワイエット・アテンションズ」（水戸芸術館現代美術センター、2011 年）、他多数。

<http://www.midorimitamura.com/>

<< こけし見聞録館の 3 階にて、福島に滞在して聞き取りをした人々の言葉を再構成した物語りのインスタレーション >>

鉾井喬 | Takashi Hokoi

1984 年神奈川県生まれ。福島在住。風で動く彫刻を中心に制作する造形作家。

学生時代、人力飛行機サークルで鳥人間コンテストに参加し、パイロットとして空を飛ぶ。感じることもないわずかな風に巨大な人力飛行機が翻弄された経験から風に興味を持ち、風で動く作品作りを始める。今は作品を山や海の自然界に持ち出し、そのフィールドに吹く風を映像として記録。彫刻と映像の融合を図る。2010 年、NHK カメラマンとして福島県に赴任。昨年夏に退職し、現在は福島市内を拠点に制作活動を行っている。

2010 年 福島ビエンナーレ（福島）、2012 年 三越×芸大 夏の芸術祭（東京・福島）、2013 年 土湯アラフドアートアニュアル（福島）など <http://www.hokoitakashi.com>

<< 四季の里、空カフェ、土湯温泉町の 3 箇所にて期間を変えて作品を移動させます。同時に映像作品を展示 >>

湯道 | yudo

湯道は、近藤ヒデノリ（クリエイティブプロデューサー）、中村ケンゴ（美術家）を中心に、2009 年に別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」をきっかけに生まれた遊びであり、総合文化活動です。「武器を捨てよ、ともに風呂に入ろう」を合い言葉に「湯を通じた対話への道」として、銭湯や各地の温泉での湯会や湯道ツアーを中心に、ゆるりと活動中。

<http://yudo-arts.com/>

<< 相模屋旅館をメインにしたツアーをします >>

吉濱翔 | Syo Yoshihama

1985 年沖縄生まれ。2010 年沖縄県立芸術大学絵画専攻卒業。意識の差で立ち上がる音をコンセプトに、日用品を使用しての集団演奏プロジェクト「びおんオーケストラ」や、フィールドレコーディングで集められた音などを使い即興演奏を行うなど、演奏行為を通じた作品を展開する。主な展覧会に「VOCA 展 2012」（上野の森美術館、東京、2012 年）、「海の声」（カーサアジア、スペイン、2012 年）、「TOKYO EXPERIMENTAL FESTIVAL VOL.8」（トーキョーワンダーサイト本郷、東京、2013）、「魂のゆくえ」（Art Center Ongoing、東京、2014 年）、演奏会に「高江音楽祭」（山脈、沖縄、2013）など。

<http://syo-yoshihama.tumblr.com/>

2013に参加したアーティストの数名が今年も引き続き参加します！

アーティストの作品を継続的に見ることや同じアーティストに触れ合い話し合うことは、長い目で地域住民の作品の理解度を高めます。

阿部乳房 | Nyubo Abe

1982年新潟県上越市生まれ／2007年金沢美術工芸大学美術科彫刻専攻卒業／台北国際藝術村などで滞在制作を行いながら、東京ワンダーサイトや金沢美術工芸大学などで作品を発表。

<<昨年は茶室を作り、自然科学研究者たちと協働でお茶会「差の湯」を開きました>>



SUIKO | スイコ

広島拠点のグラフィティ・アーティスト。2005年、水戸芸術館で開催された国内初の大規模なグラフィティ展「X-COLOR」に参加。アジア圏はもとより欧米や中東、南米など世界中から招待を受ける。近年では、Walt Disney社、コカ・コーラ社、アディダス社、ECKO unltd.社などへもアートワークやデザインを提供するなど様々な方向に表現領域を広げ続ける傍ら、グラフィティショップ兼アートスタジオ「dimlight」の代表として地元のストリートシーンの活性化に心血を注ぐ。

<<昨年は廃旅館の大きな壁面に、巨大こけしを出現させ町のシンボルとなりました>>



湯道 | Yudo

湯道（YUDO）とは「湯を通じた対話への道」であり、遊びであり、湯会、湯道具を含めた総合文化活動です。私たちは湯とアートの融合を通じて、未来に向けた風呂文化とコミュニティーを作っていきたいと思っています。湯に入ってリラックスしてゆると楽しむのが湯道の流儀です。お風呂好き、アート好き、美味しいもの好きなら気軽にご参加ください！

<<昨年は、町歩きワークショップを行いました>>



銚井喬 | Takashi Hokoi

1984年神奈川県生まれ／福島県福島市在住／2008 筑波大学芸術専門学群デザイン専攻卒業／2010 東京藝術大学大学院美術研究科デザイン専攻修了。福島県でNHKカメラマンに従事。／2011 東日本大震災に遭いヘリコプターで津波の様子などを撮影。震災前から親しんだ福島を活動の基盤とするため、2013年8月にNHKを退職し、制作活動を中心とする。鳥人間コンテスト出場などの経歴を持ち、風をモチーフにした作品を手がける。

<<昨年は旅館跡地に、福島の枯木をつかった芸術作品を設置しました>>



清水 玲 | Ryo Shimizu

1977年香川県生まれ。2010年、第2回モスクワ国際ビエンナーレ for Young Art 出展、2011年1月、十和田市現代美術館および中心商店街各所にアノニマスワード企画展 街なか美術館「トワダビト: 清水玲」出展等 【受賞等】 トーキョーワンダーウォール2010 平面部門入選／SICF11 スパイラル奨励賞／第13回 文化庁メディア芸術祭アート部門 静止画 審査委員会推薦作品 等

<<昨年は元スナックの2階に、文字を模した物語の芸術作品を設置しました>>



佐藤一弘 | Kazuhiro Sato

1963年福島市生まれ／土湯温泉町在住／土湯温泉で80余年続く写真館の三代目。「お客様の最も大切なひと時を正確に、確実に撮影し記録する」という仕事を祖父の代から三代にわたり続けている。ライフワークとしてビンテージこけしのポートレート写真撮影や郷土史を調べたりする事を好み、プロカメラマンとして消防活動を撮影する傍ら地元消防団活動などでも活躍し地域に必要な人間になろうとしている。

<<昨年は旧社員寮に、戦前のこけしのポートレイトを展示しました>>



葛谷允宏 | Nobuhiro Kuzuya

1981年 愛知県一宮市生まれ, 2006年 金沢美術工芸大学 油画専攻 卒業, 2008年 東京芸術大学大学院 壁画専攻 修了 場所や状況に手を加える事によって、それに付随する社会のシステムや価値観に対し、よりポジティブな新しい価値を生み出す事、もしくは問い掛ける事を目的としている。そのため、アウトプットの形は物を作る事に限定されず、場や仕組みなど、形に現れない事にも及ぶ。普段は世界中から若いアーティストが集まる借家「拝借景」の借主であり、展示やLIVE、各種イベントが定期的に行われるアートスペース「コンフリ」の主催者兼料理人でもある。<<昨年は元スナックに、地域滞在を元にしたインスタレーションしました>>



展覧会情報

展覧会名	アラフドアートアニュアル 2014
会 期	2014 年 9 月 5 日~10 月 13 日
開館時間	9 時~17 時まで （会場により異なる）
会 場	福島市西部地域 土湯温泉町／民家園／高湯地区／土湯峠／四季の里／アンナガーデン／ほか
休館日	無休 （会場により定休日有り）
主 催	つちゆ芸術万華郷実行委員会
共 催	福島市
観覧料	無料（会場により必要な場合も有り）
関連イベント	会期中、講演会やギャラリーツアーなどイベントを予定しております。詳細は決まり次第アラフドアートアニュアルのホームページや twitter、Facebook ページなどでご案内いたします。
ホームページ	http://arafudo.net/
交通案内	インフォメーションセンター（土湯温泉町内 なかや菓子店）： 東北新幹線福島駅下車、福島駅東口バスターミナル(のりば7)より福島交通『土湯温泉行き』バスに乗り約4 5 分、終点土湯温泉で下車。 又は福島駅西口よりタクシーで2 5 分
お問い合わせ	contact@arafudo.net （広報担当 高橋）
	福島県福島市土湯温泉町字下ノ町 17 土湯温泉観光協会分室内 「つちゆ芸術万華郷実行委員会・アラフドアートアニュアル 2 0 1 4 実行委員会」 電話：050-5857-8454（ユミソン）
	土湯温泉観光協会 福島県福島市土湯温泉町字上ノ町 1 ／電話：024-595-2217
企画	アラフドアートアニュアル 2014 実行委員会 実行委員長 佐久間智啓 総合ディレクター ユミソン